

## (1) 情報は判り易いものを

東日本大震災の被害は各地区各分野に大きな影響を与えていますが、特に東電福島第一原発の事故は、地震・津波による被害より幾層倍の拡がり、首都圏をも巻き込んでの大災害にまでなっています。露地作を中心とした野菜の出荷停止措置や摂取制限などは該当する品目・産地ばかりでなく、指摘されていない埼玉や神奈川など南関東も遅かれ早かれ汚染されるのでは――との漠とした不安を一般の消費者に植え付けかねない状況にもなっています。そして、東京の水道水汚染に関しては、大人からみれば許容の範囲で心配することはないが、乳幼児に対しては、許容量の2倍を超えた数値なるが故に飲用させないで、と報じられました。

発表される情報は毎度のことながら小出しにされたものが多く、数字を挙げられても素人目にも充分理解出来るものではないばかりか、逆に不安感を煽りたてることにもなりかねない面があります。どのように受け止めたら好いのか判らないし、不安と受けとめることが風評につながって行くのでもあり、時にはタメにした情報として一人歩きして行くことにもなりかねません。暫定基準値を超えた水道水についての厚労省の発表では、

1. 指標を超えるものは飲用を控える
2. 生活用水としての利用に問題はない
3. 代替となる飲料水がない場合には、飲用しても差し支えない

としていますが、飲んで問題ないけれども控えるべしとはどういうことでしょうか。

大辞林によると情報とは、「ある特定の目的について適切な判断を下したり、行動の意思決定をする為に役立つ資料や知識」と云っています。とすれば、情報内容を的確にとらえ、利用することが出来るか否かが、大切なことではないでしょうか。利用するためには、分かり易いものでなければならないし、相手によっては求めるモノ・コトが違って来るかも知れません。パニックに陥ることが無いようにとの配慮からか「念のため」に規制を強調する場面が TVなどでみられますが、「どの程度食べたり飲んだりしたら影響が出るのか」など具体的な明確な答えは聞かれないことが多いのではないのでしょうか。非常事態が連続している昨今だけに情報は求め求められるものとして、より速くより正しいものでありたいと願わずにいられません。

(鈴木重雄 筆)